（郵便料金共）一ヶ月金壱拾銭（本紙六頁）　明治二十二年十月十日　時事新報　日曜日　十月十日ニ十二日（郵便金二厘）

時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千四百三十八號　木曜日
明治廿二年十月十日
舊暦巳丑九月十六日　（巳未）
日出午前五時四十四分
入午後六時二十九分
月出午後五時十二分
入午前六時五十八分
（西暦一千八百八十九年）

時事新報定價
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上 六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷ニ大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合ニは新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

人種論（昨日の續）

吾人が前節に於て略説せし人種の消長に關する概則は直に移して以て歴史上幾多の出來事の説明に充つる事を得べし例へば此の勝者は光華ある文明の紀元を始めたるに彼の勝者は何故に無政無法の蠻俗をなしたるか何故に東洋人は其氣風の類似したる同盟の諸國人に對して常に容易に其軌範を盟き且つ其風習を傳ふるとを得るか、東洋人と西洋人との終局は甚だ劇烈にして常に敗者の虐殺に局を結ぶは抑も如何なる次第あるやの疑問は之を前節の所説に照らして一見明瞭ある可く將た一種の人民は常に殖民を事として而も海外遠隔の諸國をして其威稜を仰がしむるは如何なる理由ありやの問題も亦これに依て説明する事を得べしと信ずるなり扨又〜に一つの疑問は人類前途の進歩は次第ニ人種の不同を平均するものなりや將た又ふれを甚だしくするものなりやの一事なれども吾人は之ニ答ふるに文明の上層は常に昇騰しつゝあるものありとの言を以てするものにして此事實の明白なると同時に亦その最下層に位するの國民あるを免れざるが故に上下兩層の間隙は次第に相遠かるの傾あるものと知る可し勿論最下層の人民としても絶えて進歩せざるにはあらざれども文明の進歩は前進するに隨ひ加速の運動をなすものにして後者は今正に吾人の祖先が吾人の今の地歩に達する迄ニ消費したる永時代を要する其の間に前者は既に長足の進歩中にあるみとあれば若しも後者が其點に達するも因ひには吾人は果して何れの處に行く可きや苟も吾人にして此社會に存在する限りは後者より猶不遠かの前程に進まんみと疑なかる可し果して然らば人種の不同は社會の進歩に隨ひ益々甚しきを加ふるの次第明白にして文明の大勢には智愚均齊の恩澤なく而も智者は必ず愚者よりも利する所多きものとすれば其間の不同は代一代を經る毎に非常に增加するの理も亦覩易きにあらずや

事理上の説ニ據れば各人間ニ不同を生ずる劃合は幾何程に過ぎるものなるが故に非常の速力を以て進むものなれども實際には斯の如く遠ふらず其理由は事もまく事者、文人、美術家、政治家等卓越したる人物の家に其統を繼ぐもの少なきが爲めに外ならずして其子孫は衰滅して跡を絶つか否らざれば尋常一樣の凡俗に歸元するものなり蓋し其間自ら一種不可思議の法則ありて非常に卓越したる眷族をば常に之を平均せしめて世間普通のものとなさんとするが如くなれども其然る所以のものは他なし一方に於て非常に優る所あるものは又一方に於て非常に劣る所なきを得ずして爲めニ子孫の衰滅を招くものならんのみ世の英雄豪傑なる者を見るに多くは精神體格の釣合を失ひたる人物ならざるはなし而して腦髓の不平均は即ち解剖學上の怪物にして永久ふれを子孫に遺傳するみと極めて難し左れば社會の進歩も亦一個人の如く其平準を超ゆるみと能はざるものゝ如し且つ又近代分業の法大に開け社會下級の人民は常に一樣同等の業ニ服し爲めに其智を發達するの機會なきが故に兩者間の不同は益々甚しきを加ふる事となりたり蓋し今の文明の利器と稱するが如き諸器械を製造する機關師は前世紀の者に比して工風の多きと要するは勿論なれども今代の職工に至りては單に時計の一小部分の製造に從事して以て其生計を支ふるに足る可ければ之を其先人が種々の工風を凝らして時計の全體を製出したるの時に比し其才智を要するみと同日の談ニあらざればなり右の所説は單に學理上の論のみニ非ずして吾人は曾て之を解剖學の眼に徴し其實驗なるみとを確かめたるものなり人間の頭蓋骨を檢するに野蠻人中には其大さの差異甚に僅少なれども吾々の文明社會に於ては其差異の甚しきみと驚くに堪へたり左れば社會の上層より下層ニ達する解剖學上の距離は心理學上の距離と共に甚だ廣大なるものニして而して文明の進歩は益々その距離を擴張するものと知る可し斯くて人類の次第に開化するに隨ひ其同人種中ニ於ける差異も益々曠大のものとなるが故に文明の上進すると共に同人種中なる各人間の智力ニ非常の優劣を生ずるは理の當然なれども又これが爲めニ世間一般の程度の進歩するも亦疑ふ可らざる所なり

本論の所説中文明の進歩に隨ひ一體の人種及び一個人銘々の間に次第ニ優劣の差を生ずるに至る一段の説は余が多年研究の結果なり讀者もし其詳細を知らんと欲せば余が隨時刊行したる著書に就て見る可し

（未完）

雜報

○グラッドストーン氏及び夫人　鼻は人間の性質を現はすものなりとは世人の喋々する處にしてブレーン氏の大鼻、武勝軍の長鼻、ビスマーク侯の大鼻等は世界に有名なれども之を英國の大政治家グラッドストーン氏の鼻に比すれば實に同日の談ニあらず氏の鼻は頗る廣大にして顔中只鼻ある者の如く氏が演説中に時として鼻汁を吸ひ込めば其音、堂を動かす計りありと云ふ氏は演説を始むるや熱心の情、面に現はれ其音聲高く偶に上衣及下衣の鑑を脱して烈しく机を叩き人をして大工が怒に乘じ鐵槌を以て無暗に板を打つを聞くの感あらしむ氏は毎朝六時に起き他の英國紳士の如く時々衣服を着換ふる事なく終日同一の服を着し衣服の流行等には無頓着にして却て古く垢づきたる服を好めり左れば夫人は是等に注意し氏の知らざる間に古服と新服とを取換へ氏に向ひては洗濯屋へ古服を送りたれども未だ送り返へさずと云ひなして新服を着せしむ夫人は何處ニ赴くにも氏と連立ち殊に氏が演説をなす時には其傍ニ屹立して其演説の終を待ち席に着くを常とす又氏は朝飯の後書籍室に入り日々新聞を讀みて當日の大半を費し外國の政治にも着眼すれども殊に本國の政治に注意し之に付記臓するものあらば一字一句も輕視せず而して友人より氏に送り來る書籍は自身に披見するみと少なく一切長子ハーバート グラッドストーンに委ぬハーバートは今年三十八歳位なれども家父の如く衣服、帽子、靴等は通常より下等の品を用ひ何時も亂髪なり氏は朝九時より愛蘭の名士と何事かを協議し又氏の爲に盡力する人物に應接し午後一時まで人跡絶えず一時ニ至れば國會ニ出席し七時三十分ニ夕飯を喫し若し事務多忙ならざれば十一時寢ニ就くと云ふ

○理事任免　陸軍省にては此程左の通り任免ありたるよし

第四師團法官部出仕被免第六師團法官部出仕被仰付　理事　古澤廣設
第六師團法官部出仕被免第一師團法官部出仕被仰付　理事　山本忠彰
歩兵第四旅團司令部出仕被免第四師團法官部出仕被仰付　理事　三村清景
第五師團法官部出仕被免電信兵法官部出仕被仰付　理事　水島純
第四師團法官部出仕被免第一師團法官部出仕被仰付　理事　武司熙
歩兵第十旅團司令部出仕被免第四師團法官部出仕被仰付　理事　野澤勝太郎
第六師團法官部出仕被免第五師團法官部出仕被仰付　理事　豐島正路
歩兵第十旅團司令部出仕被免第二師團法官部出仕被仰付　理事試補　河合和光
第三師團法官部出仕被免電信兵法官部出仕被仰付　理事試補　橋尾保
第五師團法官部出仕被免第三師團法官部出仕被仰付　理事試補　山本勝二

○ブールス取調委員　として先頃東京株式取引所より歐米へ派出したる相良剛造、小野友次郎の兩氏は先つ米國を經て去る八月三十一日紐育府より米艦アンブリア號にて英國李浦へ向け出立せしが歸路再び米國へ立戻り調査する筈なりと

○武官の出張　第一師管軍法會議の葛岡主事は大坂へ同桑名理事は廣嶋へ同黒木錄事は松山へ此度出張を命ぜられしを以て何れも來る十三日出發するよし

○露國大學の東洋語學　露都セントピーターズバルグの大學校に日本、朝鮮、印度の語學科を創置し次期より授業する筈なりと云ふ

○栃木に於る同志大懇親會の景況　去る六日野州栃木に於て開きたる同志大懇親會の景況を聞くに會場の門前には綠門を設けて國旗を交叉し數多の球燈を吊り下げて一段の景色を添へ其左右ニ「輕佻浮薄我黨所戒慾躁過激我黨所擯」及び「從道行事莫不成就由理處物莫不貫通」と書したる二旋の大旗を立て會場の周圍には「改進補天地秩序育乾坤」と大書せる幟旗を引廻し抔して萬端の準備も既ニ整ひし折柄兼て東京より招待されし嶋田、青木、加藤、丸山等の諸氏停車場に到着せしかば之を合圖に數發の煙火を打上げて其一行を迎へ直に會場なる八百代樓に請じ纏して午後一時の開會時刻となりければ長谷川辰氏先づ起て開會の主意を述べ次で地方の有志家を始めとして丸山、青木、加藤、嶋田等の諸氏も交る〴〵起ちて各々演説をなし午後七時に至りて全く演説も終りしかば夫より宴を開き主客各々歡を盡して退散せしは夜の九時頃にて此日來會せしもの三百五十餘名なりと云ふ

○注意す可し　秋催はし千歳座、新富座の二派が火花を散ふの外なけれど各々天皇陛下の御事を祭り忽ち一條の紛議を中止解散を命ぜらるゝ聽き居て冷汗背を流さなきに非ず苦々敷も忠愛の赤心よりはあらねど兎ニ角ずく〳〵神聖なる至生じては由々敷大事ニ成ん縱横奔放の論ば他の縱横奔放の論も此一義は以來局外の君子は物言はざるを十二日午前八時催す由にて生徒の日髷抜の重あるも鉛丸抛げ（同上）觀ヨン）等其外種々開會の筈ありとの

○東京農林學校の

○不老の新法　來種々の工風を凝元氣衰ふるを維持子ニ適用する法は女子に之を適用りニ試驗中なり其下に注入するものの手せしむる程ニ有り我みろ其双紙に

○兌換銀券發行高　自九月五日迄一週之れを前週に比較

兌換券發行高	自九月五日 至十月
準備	金貨及金塊
	銀貨及銀塊
備	公債證書
大藏省證券	
政府證券	
保證	
商業手形	
手形有高	
流通高	

○貿易と國會の關係　て開きたる貿易の大要る演説の大要貿易は國と國とのものにして國會の所の集合體なりざるが如くなれども關係は決して等閑んとするには先づ利害如何の點を或は勸説に依り少數人種の政人民は皆な此の少數の書ふ所命令政府ニ於て議決は多數人民る能ハず左れば

○

○

○